

参考資料 3

(第27回都政改革本部会議
(令和2年2月14日) 資料3)

政策評価の取組について

令和2年2月14日
総務局

1 「新たな都政改革」を踏まえた政策評価の進展（1／2）

○ 今年度の政策評価では、

- ・各局（21局）が見える化改革の1ユニットを対象に、定量的なアウトカムを中心とした指標・目標を設定。
- ・都政改革アドバイザリー会議 政策評価分科会の議論を踏まえ、評価内容等の改善を実施。

○ 昨年末に発表した「新たな都政改革ビジョン」（令和元年12月27日策定）では、各局の仕事の進め方を変えることを目指している。

- 例)
- ・都庁のミッションを実現するために、CS（都民の満足）の向上を追求
 - ・都民のニーズを敏感に捉え、都庁自ら未来を切り拓いていく
 - ・都民の目線に立ち、マーケティングの発想で、求められる行政サービスをデザイン
 - ・環境やニーズの変化に大胆かつ弾力的に対応

1 「新たな都政改革」を踏まえた政策評価の進展（2／2）

- ビジョンで掲げる各局の仕事の進め方の実現に向けて、各局の迅速な政策展開等に資する仕組みとなるよう、政策評価分科会の構成員・専門調査員からの意見を聴取。

【政策評価分科会の構成員・専門調査員からの主な意見】

- ・施策を展開しながらスピード感を持って見直し・改善することで、常に施策のレベルアップにつながる仕組みにすべき
- ・施策の見直し・改善に当たって考慮すべきニーズは、これまで想定していたものよりも幅広く捉えていく必要がある
- ・各局の施策の見直し・改善を進めるプロセスの中で、外部有識者が柔軟にアドバイスをする、提案型の政策評価としていくべき

- こうした意見も得ながら、「新たな都政改革」を踏まえた政策評価の取組を検討していく。

現行の政策評価

定量的なアウトカムに着目して年度単位で施策の実績を評価

⇒年度主義による施策の見直しの仕組み
(評価結果の翌々年度の施策への反映が中心)

これからの政策評価

CSの向上に向けて、環境やニーズの変化を踏まえ、年度途中でも施策を見直し・改善

⇒迅速な政策展開によるCSの向上につながる仕組み

2 「新たな都政改革」を踏まえた政策評価の方向性（案）（1／2）

政策評価の目的

- 施策目標の実現に向けて、環境やニーズを的確に捉えた各局の迅速な政策展開を推進

政策評価の視点

① 施策を取り巻く環境・ニーズや目標の達成状況のチェック

- ・施策を展開する上で、当初想定していた環境やニーズの変化はないか（施策目標の妥当性）
※環境やニーズの把握状況や手法の妥当性を、必要に応じて確認
- ・施策目標の実現に向けて、指標・目標の達成状況はどうか
- ・施策を構成する事業の内容・手法（周知方法（広報）、民間等との連携等）は妥当か

② 環境・ニーズや目標の達成状況を踏まえた施策の見直し・改善

- ・①を踏まえ、「今後の方針」を整理・実施
例)
 - ・環境やニーズの変化に対応した改善策
 - ・施策目標の実現に向けてより大きな成果を生むための改善策
 - ・施策目標や指標・目標を必要に応じて修正

取組スケジュール

- 各局が施策の特性に応じて事前設定
(エビデンス（※）の把握、施策の見直し・改善、外部有識者の関与等の時期)
- 各施策の性質等に応じて柔軟に評価を実施し、施策展開や翌年度の予算要求に反映
(※) 社会・経済状況、国際事情、国や区市町村の施策の動向（法令の制定・改廃等）、統計データ、都民の意識・満足度、都民の声など

2 「新たな都政改革」を踏まえた政策評価の方向性（案）（2／2）

評価対象

- 環境やニーズの変化に迅速に対応するため、局として重点的に取り組むべき施策
例)
 - ・施策目標の実現に向けて有効な手段を確立する必要がある施策
 - ・Society5.0関連など、都がリーディングケースとなる先進的な施策
 - ・環境やニーズの変化を踏まえて変化が求められている施策

外部有識者（政策評価分科会）の関与

- 各局に対して、施策の見直し・改善の検討に資する提案（情報収集、分析手法等）
- 意見・助言の観点は、経営（マーケティング等）、ICT（AI）の利活用、広報・情報発信等

その他

- 来年度の政策評価の取組状況も踏まえながら、既存の制度や仕組み等との関連性の観点から不斷の見直しを行っていく

3 今後のスケジュール（案）

- 「新たな都政改革」を踏まえた政策評価の取組については、令和2年度早期の実行方針＜第1弾＞に向けて検討を進める。

